

2016年度

事業報告

自 2016年 1月 1日
至 2016年12月31日

公益財団法人 世界こども財団

公益財団法人として2年目を迎え、精力的に活動を行ないました。具体的には「さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めているこどもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与する」という目的達成のため、以下の4事業（11項目）を実施しました。

- I 被災地のこどもたちや青少年への支援事業
- II こどもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
- III こどもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための事業
- IV こどもたちや青少年の自立支援事業

広報活動については、従来通り会報誌「FGC News」の発行や、ホームページ、SNS、またイベント等での活動紹介を実施し、当財団の活動への理解、支援の輪を広げるべくつとめました。

上記4事業（11項目）の活動の主な内容は、以下の通りです。

I 被災地のこどもたちや青少年への支援事業

1 方針

被災地である福島県相馬市・南相馬市のこどもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリング、スポーツ交流、県外体験学習及び健康相談会を他の支援者とともに協働して実施しました。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・前年度に引き続き南相馬市小高区の避難指示解除に伴う学校再開を準備する中で、児童・生徒、教員及び保護者等を対象としたPTSD（心的外傷後ストレス障害）予防のためのカウンセリングについて要請がありました。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（南相馬市教育委員会、NPO法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働して支援を行いました。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行いました。
- ・カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
PTSD予防のためのカウンセリング	福島県南相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	平成28年1月～平成28年12月
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 ・【実績】 ・上記小中学校11校において実施し、対象となったのべ人数は、児童・生徒490名、教員79名、保護者96名でした。 ・2011年度より継続実施 		

(2) 健康相談

- ・福島県相馬市は東日本大震災で直接被害を受けるとともに、原発事故による放射線物質の飛散が心配され、震災後、6年を経過するも住民の方々は健康への影響について大きな不安を抱き続けているのが現実です。一方、仮設住宅居住者はほぼ0名に近づいていますが、健康診断を継続的に行っておくことは将来的にも大きな意味のあることです。上記観点より、被災地住民の原発事故による健康不安への対処および元仮設居住者の健康状態の継続的チェックを狙いとした健康診断をするよう要請がありました。本支援は世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団並びに学校法人国際学園）とともに協働して支援を行いました。
- ・世界こども財団は、本健康診断に関する支援対象者について保健センターとの調整、健康診断の実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行いました。
- ・健康診断の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
健康相談（健康不安への対応）	福島県相馬市	住民（周辺地区の仮設住民含む）	2016年7月
備考	<p>・【協働者（機関）】 相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団、学校法人国際学園</p> <p>【実績】</p> <p>・受診した住民は計 434名</p> <p>・2011年度より継続実施（のべ人数 3,841名）</p>		

(3) スポーツ交流

- ・被災地である福島県相馬市より、こどもたちを元気にするため、前年度に引続きこどもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がありました。
本開催要請は、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施しました。
- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行いました。
- ・スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもサッカースクール ・サッカー指導講習会 	福島県相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ■小学校の児童・生徒 ■監督、コーチ、保護者 	2016年1月16日、17日
	福島県相馬市	同上	2016年8月6日、7日 ※児童・生徒を星湘南大磯キャンパス（神奈川県）へ招待
	福島県相馬市	同上	2016年11月26日、27日

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学など）、学校法人国際学園 【実績】 ・ 参加した人数は 1 月が小学生 220 名、8 月が小学生 31 名、監督・コーチ 7 名、保護者 24 名、11 月が 147 名でした。 ・ 加えて、主に保護者を対象に体幹強化および緊張緩和のヨガ指導を実施しました。 ・ 2011 年度より継続実施
-----	---

(4) 県外体験学習

- ・ 被災地である福島県相馬市より、前年度に引き続き、こどもたちを元気にするための県外体験学習の要請がありました。本体験学習は、放射線への不安から屋外における体育実習や野外体験学習を十分に行えないこどもたちを、大自然の宝庫である北海道に招待し、のびのびと野外体験学習を行ってもらうとともに、それを通じて友だち、仲間への配慮、共同作業・規律の大切さを学んでもらうことを目的としています。これまでに実施した体験学習では、これら目的が十分達成できたと評価をいただいています。2016 年度においても引続き本体験学習（北海道に夏・冬 1 週間程度招待し夏は主に自然観察、冬はスキーと年 2 回の県外体験学習）を他の支援者（北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園）とともに協働して実施しました。
- ・ 相馬市は参加者を広く募集し、世界こども財団は、本県外体験学習に関する参加者についての相馬市との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行いました。
- ・ 県外体験学習の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
体験学習	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2016 年 7 月 29 日～8 月 4 日 ※自然観察、ものづくり体験
	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2016 年 12 月 23 日～12 月 29 日 ※スキー体験、雪上体験
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園 【実績】 ・ 参加した人数は夏のプログラムが 22 名、冬のプログラムが 39 名でした。 ・ 2012 年度より継続実施 		

Ⅱ 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための 支援事業

1 方針

開発途上国であるミャンマー、ブータンに対し、保健衛生及び医療環境向上のための支援活動を他の支援者ととともに協働して実施しています。

2 支援事業の概要

(1) ミャンマー：無線中継局を設置し、救急車との無線交信範囲拡大

- ・先にミャンマー政府保健省に対し救急車2台を寄贈しています。その目的は、巡回医療及び患者の緊急搬送のための体制を整備・充実するためでした。2015年、現地で発生した水害でも、被災地にてこの救急車が大きな活躍をしたと報告を受けています。当該救急車には無線装置を装備しているので、通信用の中継局（中継タワー）をネピドーに整備することにより、基地局（病院・保健所等）との交信範囲が大幅に広がり、救急車の活動範囲が拡大するとともに、緊急対応性が格段に向上されます。中継局設置を予定しているマウント・プレザント・ホテルからは既に了解を得ており、当該タワーも既にヤンゴンに到着しています。政権交代により、ミャンマー政府との協議に時間がかかっていましたが、2016年11月には現地を訪問し保健・スポーツ大臣と会合をもつ等、調整を続けています。
- ・無線中継局設置寄贈の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
無線中継局の建設・設置	ミャンマー（保健省）	ネピドー周辺の医療僻地	—
備 考	・【協働者（機関）】 一般社団法人ミャンマー協会、株式会社ファム、学校法人国際学園		

(2) ブータン：医科大学プロジェクト支援

- ・ブータンでは医療関係者の教育・育成が大きな課題となっており、現在は主に海外、特にインドへ留学させる形で教育・育成が行われていますが、それを国内にて行えるようにするため自前の医科大学を設立するプロジェクトを進めています。日本政府からのODAが必要なプロジェクトですが、ブータンの実情に合った教育プログラムの設計等で協働を求められています。2016年2月には現地を訪問し、関係者と会合を持つ等フォローアップを試みっていますが、本プロジェクトの実施時期については、ブータン政府がODAを申請するタイミング、日本政府がそれを認可するタイミング等、不確定な要素が未だある状況です。
- ・医科大学プロジェクトの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
医療教育カリキュラム作成	ブータン（保健省・教育省）	ブータン医療関係学生	—

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 医療法人社団 KNI 北原国際病院、学校法人国際学園
-----	--

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための 支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリアとの国際相互理解を図るため、同国より若手陸上選手の短期留学および陸上に才能のある高校生の留学受入れを他の支援者とともに協働して実施しました。また、エリトリアの「東京オリンピック・パラリンピック大会に関する事前キャンプ協定書」の成功を図るため、2016 リオデジャネイロ・オリンピック大会等への参加支援を実施しました。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア若手陸上選手の短期留学受入れ

- ・日本陸上競技連盟が主催する長距離選手合宿に、エリトリア若手陸上選手3名およびコーチ1名、役員1名を参加させ、日本の科学的トレーニングを体験させ、更なる才能の開花を促しました。一方、日本選手には優れた潜在能力を有するエリトリア選手との合宿が世界へ挑戦する刺激になり、これにより、両国陸連同士との交流が進み、相互にレベルアップすることへ寄与することができました。
- ・短期留学生受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
エリトリア若手陸上選手の合宿受入れ	エリトリア陸連	エリトリア若手陸上選手 およびコーチ	2016年3月9日～3月18日
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 日本陸上競技連盟、学校法人国際学園 ・【実績】 若手陸上選手3名、コーチ1名、エリトリア陸上競技連盟役員1名を招へい 		

(2) エリトリア留学生（高校生）の受入れ

- ・エリトリアより、陸上に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の高等教育を受けさせることにより、将来、エリトリアの発展そして日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成することを目的とし、調整と環境整備を進めました（留学生2名が2017年1月に来日）一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人学生は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待されます。

・留学受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア（教育省・陸連）	エリトリアの高校生	—
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ校】 学校法人国際学園 ・【協働者（機関）】 星槎学園、学校法人国際学園、日本陸上競技連盟 		

(3) エリトリア、リオデジャネイロ・オリンピック大会等参加支援

- ・エリトリア・オリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、星槎グループが締結した東京大会事前キャンプに関する協定書の実を上げるため、2016年のリオデジャネイロ・オリンピック大会でもできる限りの協力をしたい旨、日本側関係者およびエリトリア側より要請があり、その一環としてエリトリアの陸上競技選手男女13名を日本に招き、リオデジャネイロ・オリンピックやアフリカ大会、世界ジュニア大会の標準記録を公式記録として上回ることができるよう、5月14・15日、日本体育大学健志台キャンパスで開催された「長距離競技会」（5千メートル、1万メートル）への参加に協力しました。

・留学受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
リオデジャネイロ・オリンピック大会等参加支援	エリトリア・オリンピック委員会	エリトリア選手団 13名	2016年5月12日 ～5月20日
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 学校法人国際学園、日本陸上競技連盟 ・【実績】 エリトリア選手団13名を日本に招へい、記録会に参加させリオデジャネイロ・オリンピックの5千メートル標準記録を2名が突破し、アフリカ大会は5名、世界ジュニア大会は3名がクリアする成果をあげました。 		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児、障害児の自立を支援するため、他の支援者ととともに支援活動を実施しています。

2 支援事業の概要

- (1) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施しました。

- ・金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要です。そのための支援として、当該孤児院の現状把握をおこない、孤児院自立に向けて孤児院を運営・経営できる人材の育成を支援しています。
- ・2016年度は7月に孤児院関係者を日本に招き、日本の児童養護施設や幼児院に協力をいただき施設を訪問、先進的な運営手法等を学ぶ研修を実施しました。また11月には現地を訪問・視察し、寄付を行うとともに孤児院の自律的運営に向けて協議を行いました。
- ・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児院の分析および運営・経営候補者の研修	ミャンマー国内孤児院	ミャンマー孤児院の子どもたち	—
備考	・【協働者（機関）】 ミャンマー保健省、学校法人国際学園		

(2) バングラディッシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し、孤児たちが将来自立できるようにすることを目的としています。

- ・矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めて来ましたが、2016年2月にはオープニングセレモニーが開催され、現地を訪問しました。本格的な生産、出荷等については現地の産業組合と調整を続けている状況ですが、同時に職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供を積極的に進め、孤児及び孤児院自立に向けて支援を継続して行きます。
- ・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製ショック業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	—
備考	・【協働者（機関）】 （株）矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

以上